

新年のご挨拶

一般社団法人 全日本建設技術協会 会長

おお いし ひさ かず
大石 久和



あけましておめでとうございます。全建創立71年目となった新年が、会員の皆様にとって、より幸多き年になりますよう心より祈念申し上げます。また、ご家族の弥栄をあわせてお祈り申し上げます。

昨年の公共事業は、世界同時不況の懸念から当初予算のかなりの前倒しが実施されたうえに相当規模の補正予算が組まれましたから、会員の皆様には忙しい思いをされた方も多いと思います。

お正月には、昨年の疲れを癒やし、また英気を養って忙しくなる年度末に備えておられたことと存じます。今年も健康に留意し元気に活動して参りましょう。

ところで、世界の情勢は大きな変化への予兆をはらみながら推移しています。イギリスのEU離脱への国民投票が成立してEU混乱の懸念があり、加えてトランプ・次期アメリカ大統領の登場で、ヨーロッパでもアメリカでもグローバル化に疑問符が付き、この先への不透明感が世界を覆い始めています。

イタリアのレンツィ首相の選挙敗北と退任も同じ流れですが、EU第三位の経済力を持つイタリアの政治的・経済的混乱の予感もありますし、

今年はドイツ、フランスで新たな体制を決める大きな選挙が予定され、最近の情勢ではドイツ首相もフランス大統領もメンバーチェンジが予想され、新しい潮流が始まる予感があります。

お隣の韓国も大統領をめぐる政治混乱が続いていて、新大統領に誰がどのように選ばれるのかまったく不透明ですし、締め付けを強められた北朝鮮の動きは予想もつかず不気味な状態が続いています。

そのなかで、各国との政治的応接は別としても、経済的にはわが国は引き続き民間消費の落ち込みや企業投資の不足などからいまだデフレの脱却ができず、昨年の二次補正程度の財政出動では経済対策としては不十分との意見が数多く表明されています。

世界中の国のなかで、この20年間経済成長できなかった唯一の国であるわが国が、今年には復調へ方向転換できるのか否か、大きな節目の年となりそうな予感があります。

世界では何が起こっても不思議ではない年の始まりとなりました。全建は、会員各位とともに相互に連携を深め実力を涵養してあらゆる事態への準備を怠たらず、新年を乗り切って参ることをお誓い申し上げ、新年のご挨拶といたします。